

安楽寺たより

平成26年夏号 No.20号

風はみえないけれど、風のすがたは
はなびく草の上に見える

大江 淳 誠

暑い夏も本番に入ってきました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。

私は、暑さは苦手なのですが、磯ノ浦といえ
ば、やはり「夏」でしょうね。

なんと言っても、海水浴場が目につかぶと思
います。今夏も多くの方が、海水浴に来られる
のではないのでしょうか。

また山好きの方には、またこれもうれしい季
節だそうです。冬山は厳しいが、夏山なら幾分
楽になるので、挑戦できるのだそうです。山頂
からの景観は、すばらしいに尽きるとか。

ある布教使の先生のご法話に山の四季のお話
があります。

「春—山笑う、夏—山燃える、秋—山装う
冬—山眠るといわれます。

春は、若葉が風にゆられ、いかにも楽しげで、
夏は緑もよく生い茂り、秋にはだんだんと紅葉
にそまって、あたかも化粧をしているようで、
そして冬には、葉っぱを落とし、静かに冬眠に
入る。日本の山の四季の移り変わりが、自然の
力強さと、美しさを教えてくれます。

人間の一生を四季にあてはめてみると、誕生
から20歳頃までは、春とよべ、もっとも成長
するときで、なんでも楽しいもこの頃で、笑顔
もすばらしい時といえます。夏は、20代から
30代、体力も自信があり、元気に活動する時
期です。秋は40代から50代、紅葉のように、
だんだん頭も白髪が増えだし、装いも変わります。
そして、冬は60代から70代以上となります。
人生の悲喜、苦楽を知り、静寂の境地が
この年代に相当します。二度とない人生、いま
こそしっかりと自分自身の人生を見つめ直し、

いのちの尊さを味あわなければなりません。」
と述べられていました。人生の四季という味わ
い深いお話です。

そして、肝心なことはもうひとつ。四季は冬
が最後でおしまいではありません。まためぐり
春を向かえます。冬山は眠りっぱなしではない
のです。次の春を向かえる為の準備期間です。

仏教徒の目標は、決まっています。仏となる
ことです。人生の四季、春夏秋冬がそれぞれ、
仏となるための準備期間となって蓄えられてい
くのです。「死んだら終わり」と寂しい思いを
いただく必要はありません。

妙好人と敬われた因幡の源佐さんは、「お慈
悲の光はぬくいでああ」と語られています。そ
れは、まさしく臨終待つことなしの春の到来で
す。

釋 芳 英